

親子で楽しくお菓子づくり  
親子ふれあい講座「米粉スイーツ教室」

町青少年健全育成町民会議主催の米粉スイーツ教室を11月21日、西部町民センターで開催し、小学生と保護者5組12人が参加しました。米粉を使ったシュー生地を好みの形に絞って焼き、カスタードクリームを詰めてシュークリームとエクレアが完成。その後、米粉でクリームチャウダーも作りました。参加者は「普段は一緒に料理しないので、良い経験させてあげられた」と楽しくおいしい時間を喜んでいました。



▲シュー生地を思い思いの形に絞り出す

認知症になっても安心して暮らせるまちへ  
認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座を12月4日、武蔵ヶ丘中学校で行い、286人のサポーターが誕生しました。終了後は認知症サポーターの証であるオレンジリングを配布。現在、町には計5、624人のサポーターがあり、認知症の人やその家族を支える地域の輪が広がっています。生徒は「助けが必要な人を見かけたら、笑顔で接して、声を掛けていきたい」「習ったことを生かしたい」とどと決意していました。



▲講義や先生による劇で認知症を学ぶ生徒たち

町に初の六次産業化事業 社員全員の夢叶う  
町と(株)ファームクリエイティブ六次産業化事業で協定

町と(株)ファームクリエイティブは12月2日、菊陽町役場で(株)西日本シティ銀行立ち会いのもと、六次産業化事業協定を締結しました。同社は「藤彩牛」を生産する農事組合法人フジ・ファームと、馬肉の生産・精肉を行う(株)フジチクと連携して国の補助事業で建設した焼肉店「ふじの蔵」をオープン。同店は地元産の野菜を優先して使ったり、町内から優先して雇用したりして地域の発展に貢献します。



長は「地元の安全で安心な食材を提いからスタートした。社員全員の夢が叶い、この上ない喜び。地域の発展に貢献したい」とあいさつ。立会人の(株)西日本シティ銀行熊本支店の徳永広美支店長は「スタート時から六次産業化の案内などで手伝っている。今回参加できたことが大変喜ばしい」と話しました。後藤町長は「菊陽産の牛肉や馬肉、野菜などの地産地消で町がさらににぎわうことを願う」と期待を込めました。



1 藤本健社長、立会人の徳永広美熊本支店長、後藤三雄町長ら2 3 にぎわう「ふじの蔵」。藤彩牛のステーキや馬刺し、「ふじの蔵」提唱の焼きしゃぶが味わえる

地域で応援！ 親子で楽しむ子育て  
第11回次世代育成支援「陽っ子まつり」

第11回次世代育成支援「陽っ子まつり」を11月21日、光の森町民センター「キャロルピア」で開催しました。陽っ子まつりとは、乳幼児期の子育て世帯や町民、団体、保育所が交流を深め、地域全体で子育てを応援するイベントです。町内外から約300人の家族連れや地域住民、子どもたちなどが来場。会場では「FUN&FIT」の緒方保美先生の親子遊びや壁をキャンバスにして大胆にお絵描きをする「みんなでアートコーナー」、ボールをゴールに入れてビンゴ遊びをする「わんぱくコー



ナー」、クリスマスリースやティッシュケースを作るコーナーなどがありました。その他、保育園で出すおやつを展示した「食育コーナー」もあり、保育所の調理師が保護者の質問に分かりやすく答えていました。来場者からは「子ども親も楽しめるイベント」「保育士さんもいてゆっくり遊べた」「子どもたちが伸び伸び遊べた」「今回のような催しが定期的にあってほしい」「子どもが帰るときに『今日楽しかった！』と言ってくれてうれしかった」などの感想がありました。



1 フェルトと新聞紙でクリスマスリース作り 2 絵本と同じ表情を真似する親子遊び 3 自分の手や筆で段ボールに絵の具でダイナミックに絵を描く子どもたち

運動の楽しさ再発見！ 健康に生きるコツを学ぶ  
健康教室と簡易血糖値測定会

町の国民健康保険加入者を対象に健康教室と簡易血糖値測定会を行っています。健康教室(キャロルピアクラブ)は11月2日から毎週月曜日にキャロルピア体育館で全9回実施。参加者20人は運動指導士・佐々木誠市さん指導のもと、軽快な音楽に合わせて体操をしたり転倒予防の運動をしたり、ウォーキングをしたりしました。佐々木さんは「学んだ知識を自分でも実践できるようにになってほしい」と話していました。



他に、保健師や管理栄養士による食事に含まれる糖分の講話などもあり、参加者は熱心に受講。「先生の話しも面白く、楽しみながら運動できた。普段の食事の取り方や栄養素などの疑問を聞いてよかった」と大好評でした。簡易血糖値測定会は11月8日に鼻ぐり井手祭で、14日にすぎなみフェスタで行いました。これは健康状態を把握し、定期的な健診の重要性を知ってもらうためのもので、計54人が測定。参加者は「簡単に血糖値が分かって驚いた」と話していました。同時に血管年齢測定も行い、会場は大勢の人でにぎわいました。



1 自分のペースで和気あいあいと筋トレを頑張る参加者の皆さん 2 血糖値を測定し、生活習慣のアドバイスを受ける鼻ぐり井手祭の来場者 3 血管年齢を測定





## 科学の楽しさ再発見

### 菊池郡子ども会大会「サイエンスショー」

菊池郡子ども会大会が11月29日、町民体育館で開催され、菊陽町と大津町の小学生や保護者128人が参加しました。今回はK'sサイエンスラボがサイエンスショーを開催。すりおろしたにんじんを入れたロケットを飛ばす実験や空気の弾丸を飛び出させる巨大空気砲の実験、色が変わるスタンドグラスの制作など、目の前の不思議な現象に参加者は夢中になりました。

菊陽西小4年生の林真優さんは「とても楽しかった。家で空気砲を作ってみたい」と目を輝かせていました。



▲勢いよく飛び出す空気砲の実験に盛り上がる会場

## 就職に悩む人のために

### 第2回若者就職相談会

たまな若者サポートステーション主催の「第2回若者就職相談会」が11月25日、ゆめタウン光の森2階特設会場で開催されました。15歳～39歳の就職に悩む人やその家族が対象で、当日はさまざまな人が相談に訪れました。本相談会は、毎月第2第4水曜日に菊陽町役場 消費生活相談室でも行われています。

相談員の村上修一さんは「就職に悩んでいる人やその家族のお力に少しでもなればと思っています。お気軽にご相談ください」と優しく話しました。



▲本人や家族の相談もあったゆめタウン光の森特設会場

## 町スポーツ振興に尽力

### 平成27年度スポーツ推進委員功労者表彰受賞

全国スポーツ推進委員研究協議会が11月12日・13日、愛媛県松山市で開催され、北岡清さん(南八久保)が平成27年度スポーツ推進委員功労者表彰を受賞しました。この賞は活動年数10年以上のスポーツ推進委員が対象。北岡さんは平成元年の体育指導委員(当時)就任から現在まで26年間、地域スポーツの普及と発展に尽力し、現在も本町で活躍しています。北岡さんは「今回の受賞を励みに、今後も町のスポーツ振興に努めていきます」と話していました。



▲赤峰洋次教育長への表敬訪問に訪れた北岡清さん(右)

## 町道が美しく

### 菊陽町造園協会「ボランティア清掃活動」

菊陽町内の造園業者有志でつくる菊陽町造園協会(中村秀春会長)の会員10人が10月29日、久保田・津久礼地区の町道で路肩の草刈りやごみ拾いなどの清掃活動を行いました。会員は10月31日に開催された熊本県高校駅伝の選手の安全のため、約4時間の作業で2トントラック3台分のごみを回収しました。

中村会長は「高校駅伝の選手の皆さんが安全に走れるように頑張りました。今後も高校駅伝や町民の皆さんのために頑張ります」と話していました。



▲町道をきれいに清掃した菊陽町造園協会の皆さん

## 菊陽武蔵剣豪太鼓が青少年の部で表彰

### 平成27年度熊本県青少年健全育成県民フォーラム

熊本県青少年健全育成県民フォーラムが11月28日、熊本市で行われ、菊陽武蔵剣豪太鼓が青少年(団体)の部で表彰されました。これは青少年の健全育成に優れた活動をしている個人・団体を表彰しているもの。菊陽武蔵剣豪太鼓は和太鼓の技術継承・普及や町内外の行事に参加して、明るい地域づくりに貢献している功績が認められました。会長の坂口繁幸さんは「青少年育成の分野で表彰頂き光栄です。今後も活動を通して地域に貢献していきたいです」と話しました。



▲30年間活動を続け、表彰される剣豪太鼓・坂口繁幸さん(右)

## 黒毛和種の雌子牛が331万円

### 子牛セリ市

子牛セリ市が11月6日、県家畜市場(大津町)で行われ、就農3年目の赤塚祥太さん(馬場)が育てた黒毛和種の雌子牛「ひさゆり」が過去最高額の税込331万円で落札されました。同種牛の平均落札額は約65万円でこれまでの最高額は195万円でした。

赤塚さんは「当日の子牛品評会で優秀賞を取り、100万円超えればいい方だと思っていたので今回の落札額には驚いた。諸先輩に学びながら、今後もいい牛を育てていきたい」と今後の意欲を話しました。



▲就農3年目の赤塚祥太さんとひさゆり号

## 見て食べて、歩いて楽しむ

### JR九州ウオーキング&菊陽町スタンプラリー

秋のJR九州ウオーキング&菊陽町スタンプラリーが11月23日、町内で開催されました。町内外から583人が参加。三里木駅を発着とする約8kmのコースで、沿道の景色や地域との交流を楽しみました。毎年恒例の鉄砲小路区によるおもてなしや山内本店の味噌・菊陽産野菜が当たるさんふれあでの抽選会はことしも好評。今回は真弓農園のにんじんジュース試飲も加わりました。参加者は「にんじんジュースおいしいね。良いお土産も貰えてうれしい」と喜んでいました。



▲スタートの三里木駅は多くの人でにぎわいました

## 芸術作品が集結

### アート・フェスタinきくよう

アート・フェスタinきくようが11月22日～25日、光の森町民センター「キャロピア」で開催されました。一般町民と小・中学生の絵画や書道、工芸、文芸、写真、彫刻など39種類の作品約600点を展示。期間中は670人が来場し、芸術性の高い作品に感嘆したり、自由な発想で描かれた学童作品に驚いたりしていました。実行委員長の山部幸一さんは「町内の芸術作品を集結させる催しを開催できて良かった。この芸術の灯を今後も継続させたい」と話していました。



▲小中学生や一般町民の絵画などを鑑賞する町民





## 人形劇を身近に体感

### 人形劇ぶっくるホワイエ公演

菊陽町図書館を拠点に活動する「人形劇ぶっくる」の第2回ホワイエ公演が12月12日、図書館ホールロビーで開催されました。多くの家族連れなど45人が人形劇を身近に体感。昔話「なら梨とり」と「みんなであたおう」の2本立てでした。観客は臨場感のある人形の動きやかわいらしい仕草に見入っていました。子どもたちに人気の歌『鬼のパンツ』『手のひらを太陽に』など5曲が披露されると、みんなで一緒に歌ったり踊ったりして楽しいひとときを過ごしました。



▲最後に人形たちと『ぶっくるのうた』を歌いました

## 子どもと大人でぺったんぺったん

### 菊陽北小校区青少協「餅つき大会」

菊陽北小校区青少年健全育成協議会の餅つき大会が12月12日、ふれあいの森研修センターで開催されました。家族連れや地域住民など109人が参加。子どもたちは地域住民と力を合わせ、杵と臼で元気いっばいに餅をつきました。参加者は餅を丸めた後、きな粉やあんこ、大根おろしなどで味わっていました。

おさんと来ていた宮内尚美さんは「毎年来ています。貴重な体験ができてとてもいい。今後もこのような活動に参加していきたい」と交流を楽しんでいました。



▲掛け声に合わせて力強く餅をつく子どもたち

## 新たな交通拠点

### 九州産交バス(株)光の森営業所を開所

県内で路線バスを運行する九州産交バス(株)が本町に光の森営業所を開所し、12月1日、同所で開所式が行われました。式典には九州産業交通ホールディングス(株)の矢田素史社長や九州産交バス(株)の森敬輔社長、後藤三雄町長などが出席。テープカットと同時に白鈴園の園児と関係者約100人がカラフルな風船を飛ばして祝いました。森社長は「さらに利便性を高められるよう取り組む」と話しました。後藤町長は「町外の来客が増え町の発展につながる」と期待を込めました。



▲九州産交バス光の森営業所で行われた開所式

## 地域の絆深まる

### 第11回東部町民センター「みんないきいき交流会」

みんないきいき交流会が11月21日、東部町民センターで開催されました。同センター管内の曲手区、馬場楠区、戸次区、上中代区、出分区、中代区、川久保区、津留区、大堀木区から200人超が交流。会場では馬場楠の獅子舞や、ふれあい劇団の劇、踊り、歌、楽器演奏、大正琴、ひょっとこ踊りなどが披露され、歓声と拍手が送られていました。参加者は「とても良かった。皆さん楽しんでいて盛り上がりました」と地域で支え合う絆が深まり喜んでいました。



▲「お花ちゃん」の踊りなどが披露されるステージ発表

## 気付き・考え・行動する

### 菊陽町人権子ども集会

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす第31回菊陽町人権子ども集会が12月5日、菊陽町民体育館で開催されました。町内8つの学校から小中学生や先生、保護者など1,200人超が参加。子どもたちは命や人権・平和の大切さや人権学習で学んだこと、身の回りの差別をなくす取り組みを発表しました。

ステージでは武蔵ヶ丘小、武蔵ヶ丘北小、菊陽西小、菊陽中の児童・生徒が授業や修学旅行で学んだハンセン病や長崎の原爆、自分の家族への思いなどを発表。「じろちゃんのさくぶん」を学習した西小1年生の那須つくしさんは「嫌だったことを思い切って友達に言い、友達も私も心がすっきりした。伝えて良かった」と伝えて分かり合うことの大切さを話しました。他に中部小、菊陽北小、菊陽南小、武蔵ヶ丘中の児童・生徒は壁新聞やポスター、人権旗の展示を行いました。

最後にみんなで「もっとお互いに知り合い、気持ちを伝え合う仲間を増やし、差別をなくすための行動を起こして、安心して過ごせる学級・学校、菊陽町をつくっていきましょう」と集会宣言文を読み上げました。



1ハンセン病を入所者から学び、「人や笑顔を大切にしたい」と発表する武蔵ヶ丘北小児童  
2ステージの発表に対して感想を話す参加者  
3「学んだことを生かしたい」と作文を読み上げる菊陽西小児童

## 県民みんなが子育て応援団！

### くまもと家庭教育推進フォーラム

くまもと家庭教育推進フォーラムが12月6日、菊陽町図書館ホールで行われ、約500人が来場しました。菊陽中合唱部がうっとりする歌声を披露し、平成27年度家庭教育支援功労者・優良団体表彰を受けた菊陽町家庭教育支援チームは「親の学び」講座を実演。オハナシマンの読み聞かせや家族・親子・地域の絆について矢野大和さんの笑いを交えた「口演」もありました。

参加した保護者は「親が多様な考えで子どもを見つめていくことが大切ですね」と話していました。



▲「親の学び」講座を実演した町家庭教育支援チーム

## 高等学校教育の発展に尽力

### 平成27年度教育者表彰

平成27年度教育者表彰式が12月1日、文部科学省で行われ、上川幸俊さん(緑陽台)が表彰されました。

県立高等学校の校長、県高校教育課長を経て、現在、県教育委員会総括審議員兼教育指導局長の上川さん。「大変光栄に思っています。今後も受賞の名に恥じないよう県内の教育の発展のために尽力していきたいです」と受賞の喜びを話し、菊陽町の子どもたちへ「ふるさと菊陽に誇りを持ち、自分の夢の実現に向けて精いっぱい頑張ってください」とエールを送りました。



▲長年、高校教育に尽力している上川幸俊さん(左)